

要はありませぬ。

慧明と云ふ名が同じでも、其人は違います。例へば同じ宗門の中に同時代に同名異人があります。大石寺の住僧も日達と号し、日本山にも亦日達が在ります。各々別異の事をしております。仏教辞典の慧明が宗門緊要を作ったなどは誰も云ったことはありません。慧明と云へば仏教辞典の慧明より外に無いと断定してはいけません。宗門緊要を研究するに木庵の歴史など調べる必要はありません。宗門緊要集を読まずして、真作者をせんさくするが如きは藪をつついて蛇を出すのと同じ事でありす。学問の迷路であります。

さて、当山の臘八接心は三十名の青年にて修行しました。此中、インドネシア開教に一名、アフガニスタン開教に一名、ダージリンの起塔供養に一名、甲谷陀道場に一名出立致しました。一閣浮提広宣流布の瑞相であります。

いのです。日本山の行履は世間の追求する名聞とは別途な筈であります。名聞を追求する処には日本山の面目はありませぬ。拙子もいつの間にか名聞を求めて奔走して居ったでせうか。それでは高祖大聖人を辱かしむる所以であります。愚人を威嚇する為にネルー賞が用ひらるるかも知れませぬ。そうなれば受賞を辞退する方が寧ろ罪が軽いわけでありす。日本山は何事も唯仏のみ当に自ら我心を知らしめせ、で無ければなりませぬ。仏の照鑑我即歡喜の一言こそ、日本山の求めてやまぬ目標であります。世間の名聞を追求する事は日本山の恥辱であります。断じて避けねばなりませぬ。酒清よりも、麻葉よりも、一層恐る可き日本山の腐蝕剤であります。世間の名聞と無関係の行事を求めませう。

岡本光司先生

南無妙法蓮華經

仏足山 十二月満月 日達

日本山の恥辱・腐蝕剤

南無妙法蓮華經

仏足山 師走十二日 日達

印度の国のネルー賞受賞は想設けぬ大事件でありました。忝拝受致しました。推薦者がマハトマガンディ翁の令孫夫妻であつた事が、更に有難く感じました。

ネルー賞も、レーニン賞も、ノーベル賞も何れも是の如きものは皆名聞の道具であります。是を避ける事が所謂宗教者の本意である可きであります。菩薩行の中にも名声普聞と云ふ功德はあります。然しそれは求めざるに自ら得る所でありす。求めて平和賞を得たる例は佐藤栄作のノーベル平和賞の如きものがあります。拙子がネルー賞を受賞せしが故にネルー賞の価値を地に落さしめたと云ふ誹難の声は未だ起ら無いでせうか。恐縮して居ります。

日蓮大聖人已下六老僧等、当時編集されし仏教史上に、一人も掲載されて居りませぬ。それで好

拝復致します。

去十一月二十一日付の御手紙を拝受致しました。有難く拝見致しました。

去十一月十三日印度国ネルー賞本年度受賞者の選考決定で発表されました。不思議な事に拙子が指名されました。感謝に先立て、驚きました。抑も是は何とした出来事であるか、どうしたら良いか、と思索しました。

結局是非暴力革命に成功せし平和国家印度の恩恵として拝受する事が平和運動の為に、仏法弘通の為に、光栄であると信じて、我身の不徳を忘れて拝受する事に致しました。果して日本の仏教徒も、日本の平和運動の団体も、皆未曾有の歓喜心を生じました。

それに付けても、誰の人が拙子を推薦せしならんと想ひ巡らして居りました処、バプジの令孫スットラ夫人と其主人ガジャーナンの二人であつた事がわかつて、又驚きました。此二人の権威